

中川西中学校令和5年度学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査分析

国語

神奈川県、全国ともに平均正答率を上回る結果となった。1、2学年において並行履修を行うことで、3年間を通して言語の知識・技能の定着が図れたことが伺える。今後も生徒の主体的に学習に取り組もうとする意欲を大切に、その力をさらに伸ばしていけるような授業の計画を行っていく。

数学

正答率について、本校は全国平均や全県平均を上回っている。すべての領域について平均を上回っているが、なかでも計算分野においては大きく上回っており、小学校からの計算練習等が、積み重ねられていることが読み取れる。また、数学に関しての興味関心が高く、日々の授業での発表や積極的な意見交換が、記述式の問題などに自分の考えをしっかりと示せる力につながっているのではないかと考えられる。

英語

すべての領域の正答率が全国平均を上回っている。特に今年度実施された「聞く・話す」の領域では思考を求められる問についても全国平均の2倍以上である。また、無答率では全国平均をはるかに下回っている。小学校の低学年から英語に慣れ親しみ、中学校でも状況・場面をふまえた表現活動が普段の授業で行われている結果であると考えられる。

横浜市学力・学習状況調査分析

国語

どの学年も概ね横浜市の平均正答率と同等、あるいは上回る結果となっている。知識・技能の力に定着が見られる一方で、思考力・判断力の理解度に課題が残る。今後も授業において、生徒が主体的に思考・判断し、表現ができるような展開の工夫をしていく必要がある。

社会

全体の傾向として、1年生から2・3年生にかけて、学習意識が高まり、それに伴い知識の定着もみられる。反面、思考は伸び悩む傾向にあるため、知識偏重の授業だけでなく、思考を伸ばす授業等が必要である。

数学

班の活動やICTの活用を積極的に取り入れた授業により、学習意識に繋がったと考えられる。また、授業テーマで身の回りの事象を取り扱うことにより、実生活と結び付けて事象を捉えることができ、主体性に関しても全学年において高いと考える。

理科

学年が上がるにつれて、学習意識が高まっている。科学的な思考力・表現力を伸ばすために、話し合い活動やグループワークを多く取り入れており、思考力・判断力ともに伸びている傾向にある。

英語

学年が上がるに従い知識・技能の定着が見られる。思考・判断・表現力の伸びは学年が上になると多少鈍くなる傾向があるが、内容が複雑になるためと考えられる。引き続き状況・場面考慮した表現活動の充実を図りたい。